

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 96 号	氏名	宮明 寿光
学位審査委員	主 査	関根 一郎	
	副 査	兼松 隆之	
	副 査	河野 茂	
論文審査の結果の要旨			
<p>1. 研究目的の評価 C 型肝硬変を背景に発生する小結節病変は large regenerative nodule (LRN), dysplastic nodule (DN) [low-grade dysplastic nodule (LDN) と high-grade dysplastic nodule (HDN) に亜分類], well differentiated hepatic cell carcinoma (WDHCC) に分類される. 今回 LRN と腫瘍性性格を有するとされる DN について病理組織学的に検討し、その相違点を明らかにし鑑別診断の指標となる所見を探ろうとした研究目的は明確で評価できる.</p>			
<p>2. 研究手段に関する評価 C 型肝硬変合併肝癌切除症例の非癌部内の小結節性病変の把握、結節病変の分類、標本作成と特殊染色、病理組織学的検討項目の選択、観察方法と評価法など研究手段の選択や手技は妥当であった.</p>			
<p>3. 結果・考察の評価 結果、結節の細胞密度、血管新生（類洞の毛細血管化、unpaired artery）は細胞異型性の増す LRN, LDN, HDN, WDHCC の順に増加した. LRN では新生血管が見られず、LRN が腫瘍性でなく単なる過形成病変であることが示唆され、新生血管の有無が LRN と DN の鑑別に有用と考えられた. これらの知見は肝臓病学の研究発展に大きく貢献するものであり高く評価できる. 審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した.</p>			